

# チモシー割合を高く維持できる新品種 晩生アカクローバ「アレス」今春より新発売 北海道優良品種、OECD登録品種

### 始めに

栄養価の高い牧草サイレージの生産にはマメ科牧草は欠かすことのできない草種であります。マメ科はイネ科より粗蛋白質(CP)、カルシウム、マグネシウム、カリが高く、繊維分のADF、NDFが低い等栄養価が高い草種です。しかしながら、混播利用では2番草のマメ科割合の変動が大きく、水分含量も高いことからサイレージ品質が安定しないためにチモシー単播利用が多く見受けられます。

今回紹介する晩生品種「アレス」は従来の早生品種とは異なり、夏季間の生育が穏やかなためにチモシー割合を高く維持することができます。マメ科を混播したいが2番草のマメ科が多くなって困っている人へお勧めです。

### アレスの特性

平成16年から18年までの3カ年間の品種選定試験結果から特性を紹介します。

#### 1) 早晩性と開花程度

2カ年共に「アレス」は開花に至らず、蕾を付けただけであります。2、3番草の開花程度も少なく、殆んど開花しません。草丈は各番草ともにホクセキより低く、特に2、3番草は開花茎が少なく生育が穏やかなために低く、チモシーとの混播に適しております。

#### 2) 混播適性

アカクローバは2年目の2番草の生育が旺盛であり、この時期にチモシーを抑制し裸地が発生します。マメ科が優占しやすい火山性土壌においては、早生のチモシーでさえもアカクローバに抑制されることがあるため混播適性に優れる品種が求められておりました。

晩生品種のアレスはキリタツプとの混播試験(図1)では畜試(新得)、北見、根釧においてホクセキよりも2番草マメ科率が低く、また6場所平均でも同じ傾向でした。ノサツプとの混播試験においても、北見農試のようにマメ科が優占する地域では、ホクセキよりもマメ科率が少なく1、2番草共に50%程度と安定しています(写真)。

アカクローバの晩生品種はホクエイ、シリウスのような中生のチモシーとの混播に適しておりますが、早生のチモシー「ホライズン」でも「マキミドリ」、「ケレス」との混播利用時にマメ科が優占する地域においても利用できます。

#### 3) 利用方法

アレスは晩生品種のため、年間2回刈りに適します。1番草はホクセキと同じように生育が旺盛であります。2番草の生育が穏やかなためホクセキよりもチモシーを抑制しません。

このような特性から、中晩生のチモシーとの混播は勿論であります。マメ科の生育が旺盛な地域においては早生のチモシーとの混播利用にも適しております。混播する場合の播種量はha当たり2~3kg程度です。

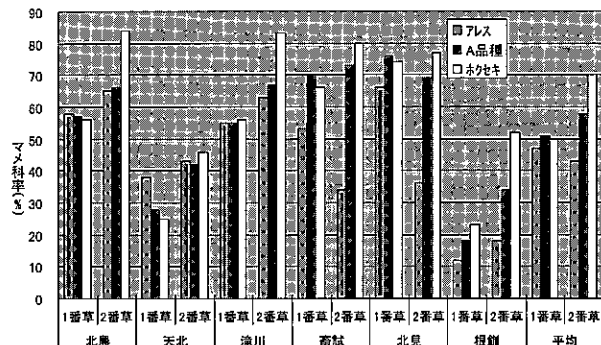


図1 2年目1、2番草マメ科率 (キリタツプとの混播、%)



写真 2年目秋の状況(畜試、'05年9月28日、上アレス、下ホクセキ)

### 最後に

穀物高騰によりトウモロコシの作付面積は確実に増え、カロリーはトウモロコシ作付により確保しつつありますが、タンパク質の自給はすすんでおりません。タンパクはアカクローバ、アルファルファを混播することによって草地から確保してははいかがでしょうか。(寒地牧草・飼料作物研究グループ 高山リーダー)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範  
 本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号  
 TEL(011)891-5911  
 FAX(011)891-5774